

令和4年度 学校評価総括表

| 教育目標 | 自ら学び高め合い、心身共にたくましく生きる浮西っ子の育成 ～はつらつと・たくましく・ほがらかに～ | | | | | | | | | |
|-------------|--|--|---|-----|----|----|--|---|--|---|
| 学校運営の柱 | よく学び、よく考える子の育成(知) なかまと共に助け合い、励まし合うこの育成(徳) 元気な体をつくり、ねばり強くやりとげる子の育成(体) | | | | | | | | | |
| 前年度の課題 | ○主体性・自己肯定感・表現力を高める ○学力向上・授業改善 ○教職員間の意思統一・実践力 ○下校後の安全・防犯 ○家庭学習の習慣化 ○家庭・地域との連携 | | | | | | | | | |
| 本年度の重点目標 | ○自ら進んで伝え合う子を育てよう ○自分で考え判断し、前向きに行動する子を育てよう ○健康に気をつけ粘り強く取り組む元気な子を育てよう ○人権感覚を育てよう～よく知り より深めよう～ ○子どもを中心に、家庭・地域と学校の教育力をつなごう | | | | | | | | | |
| 評価項目 | 具体目標 | ○具体的方策・★評価指標等 | 児童 | 保護者 | 教員 | 評価 | 成果と課題(評価の分析) | 課題の改善策等 | | |
| 学校運営 | 学校教育の充実 | 目標に根ざした取組 | ○ねらいを明らかにした教育活動 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 1 | 1 | A | 目指す学校の姿を「いのちと人権を守る安全で安心な学校」「学びを通して生きる力を鍛え、生き方が育つ学校」「家庭・地域の教育力をいかに連携する学校」とし、取組を進めた。 ○各分掌が担う目的を明確にし、学校教育目標に照らした取組を組織的に進めた。どの項目も肯定評価が8割を越え、概ね教育活動への理解を得ることができた。 ○児童「先生は自分のことをわかってくれる」に93%、保護者「学校は相談・要望に誠意をもって対応している」に93%の肯定評価があった。家庭と学校が共に子どもを育てるパートナーとして教育活動を行っているのは有り難い。通信等で積極的に発信したことも保護者の理解につながった。今後、対面での活動が増えることが想定され、地域の教育力をさらにどう活かせるかが教育内容を充実させる上で課題である。 ○研究主題と、教員が自身の課題をもち教育技術向上に取り組んだ。独自の授業モデルを示し、全員が授業公開したことにより授業者・参観者ともに、明確な指導事項・各教科の見方・考え方・対話を学びの中心とする意識が高まった。 ○業務改善は肯定率が昨年度より15ポイント上回った。職場単位か個人単位か、主体が明確になり取組につながってきた。 | ○今年度の教育活動に概ね理解を得ているが、取組の効果を測る指標が児童・保護者・教職員の主観的なアンケートに頼る部分が多い。客観的な指標(頻度、数値、状態など)を用いて、その変化や度合いにより取組の効果を明らかにすることで、実効性のある取組にしていく。 ○「学習がわかるか」の問いに「そう思わない」と答えた児童が10%いる。学びを通して生きる力を育てることが学校教育の目的であるため、0%を目指し研究推進が核となり授業改善に取り組む。また、校内OJTにより教員が自身の課題を追究し教育技術の研鑽に努める。 ○本校の教育課題を家庭・地域と共有し、それぞれが担える役割を明らかにする。その上で、効果的な連携の在り方を追究し、本校区の「特色」ある教育活動を推進する。 ○業務改善の第一義は教育的効果向上に資することである。勤務状況の改善のため、職場単位でできる方策と個人単位でできる方策を具体的に掲げ、実践する。 | | |
| | | 教員の資質向上 | ○授業改善や研修等の自己研鑽 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | 3 | | | A | |
| | | 児童対応 | ○児童との円滑なコミュニケーション ★児ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 4 | 5 | | | | A | A |
| | | 家庭・地域の教育力 | ○連携の強化と教育力の活用 ★保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 2 | 5 | | | | A | A |
| | | 家庭との連携 | ○適切な対応と積極的な発信 ★児ア・保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 11 | 11 | 6 | | | 7 | A |
| | 組織力の強化 | 職務意識の向上 | ○各分掌における重点目標に基づいた積極的な取組の推進 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | | | 2 | A |
| 働き方改革 | | ○業務改善の推進 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 4 | B | | | |
| 研究推進 | 確かな学力の育成 | 授業力の向上 | ○児童がわかりやすい授業づくり ★児ア・保ア・各教科診断テスト結果 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 2 | 5 | | A | A | ○【授業力の向上と校内研究の充実】 ・伝え合う機会が増え、話し合うとわかりやすいと感じている。 ・教職員の学び合いの意識が向上し、言葉による見方・考え方を学びの中心においた課題・言語活動の設定の必要性、めあてと振り返りを意識した授業作り(取組み、浮西授業モデルが定着してきた。考えの交流に留まらず深い学びにつなげることや、児童が学び(指導事項)を実感する国語科の授業についての研究が必要である。 ○【基礎学力の向上】 ・自分の考えを書き表せる児童が増えたが、難しいと感じている児童が2・4・6年で増加(全体で+7.8%)書くことが好きと答える児童も若干減少した(全体-4.2%)。3・5年は書くことが難しいと感じている児童が減少した。読書活動が充実した。ステップアップタイムの取組の内容が定まらなかった。 ○①条件や書く量を示すことが難しいと感じさせた②書くことに固執せず書き表せたことを評価していくべきである(ポートフォリオ等)③全体交流では「正しく間違えず答える・恥ずかしい」と考える児童が多い(話すことが苦手:110人、授業中、発表をしている:肯定49%)と分析する。 | |
| | | 基礎学力の向上 | ○ステップアップタイムや読書活動による語彙力の向上 ★児ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 12 | | 8 | A | A | | |
| | | 校内研究の充実 | ○「書く」活動の充実による思考・判断力の育成 ★児ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 10 | | 9 | | B | | |
| | | | ○浮西授業モデルによる表現力の育成 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 10 | B | | |
| 人権・特別支援教育推進 | 人権感覚の育成 | 特別支援体制の充実 | ○誰もが認められ安心できる教育環境作り ★児ア・保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 1 | 3 | 4 | 11 | 12 | A | ○「人権を確かめ合う日」や人権作文集を活用して意識を高めることで、お互いのちがいを認め合い、だれもが安心して過ごせる学級づくりをすすめていく。 ○今後も啓発紙の発行や啓発授業を計画的に行い、交流学級と特別支援学級をつないでいく。 |
| | | 自他を大切に作る集団作り | ○いじめを許さない、見逃さない集団作り ★児ア・保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | 3 | 13 | | A | |
| 生徒指導部 | 社会的資質の向上 | あいさつの励行 | ○進んであいさつする児童の育成 ★児ア・保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 6 | 13 | 14 | | | B | ○学年毎に挨拶活動をしたり毎学期全校で挨拶運動に取り組んだりして意識を高めたが、児童の肯定評価は73%に留まった。学年が上がるに連れ消極的な傾向がある。異学年や担任以外との交流が少なく関係が希薄で、見守り等地域の方とのつながりも十分認識できていないと考えられる。 ○課題を共有し教員が一貫した指導をすることで、規範意識を高めた。しかし「廊下を歩く」「帽子を被る」等の基本的なルールが徹底できず、教員間で指導のずれがある。 ○避難訓練を4回実施し3学期は運動場への避難を含めた訓練ができた。内容を事前に伝えず、臨機応変に行動する訓練も必要である。避難計画が有効に機能するかも曖昧な箇所がある。 |
| | | 規範意識の育成 | ○規範意識育成のための適切な指導 ★保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | 7 | 15 | | A | |
| | | 安全教育の充実 | ○校内外の安全を図る適切な指導 ★保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | 9 | 10 | 16 | | |
| 特別活動部 | 自主的・実践的生活態度の育成 | 自主性・判断力の育成 | ○異学年交流の推進 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 17 | | A | ○全校掲示板を設け、子どもたちが積極的に発信する場をつくることになった。掲示板の活用による肯定的な回答をする教員が増えた。また、委員会活動を通して自発的な活動を行えるようにした。うっきータイムも計画的に行い、異学年交流を進めることができた。 ○感染拡大防止のため、全校集会ではmeetを活用したりモート集会在主になっていた。今後は少しずつ状況に合わせた実施ができるように、方法を模索していく必要がある。 ○清掃・栽培活動について児童・保護者・教職員ともに肯定的回答が多い。しかし、掃除活動の実態としてはまだまだ指導が必要な場面が多い。 |
| | | ○全校掲示板の活用 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 18 | | A | | |
| | | 教育環境の整備 | ○清掃・栽培活動等の推進 ★児ア・保ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 7 | 8 | 19 | | A | A | |
| 保健体育部 | 心身の健康安全の保持・増進 | 体力向上の推進 | ○持久力向上を目指した継続的な体育指導 ★教ア・体力テスト結果 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 20 | | A | ○学習時に浮西サーキットを行うなど、教員の体力向上を目指した体育指導への意識が高い。 ○保健委員会が清潔検査や手洗いの呼びかけ等の常時活動を行ったり、給食委員会がバランスの取れた食事の大切さを呼びかけたりした。各学年でも食育学習を行い、基本的・衛生的な生活習慣を確立についても肯定評価が高かった。 ○外で遊んでいると答えた児童が56%に留まった。外遊びを毎日楽しみにしている児童と全く外に出ない児童があり、休み時間の過ごし方に二極化が見られた。 ○【ソフトボール投げ】6年女子以外県平均以下、前年度比較は5年女子・4年男女以外は改善。【シャトルラン】県平均以下の学年が多い、前年度比較は6年以外改善。 |
| | | ○外遊び等、粘り強く取り組む態度の育成 ★児ア・教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | 8 | | 21 | | B | | | |
| | | 生活習慣の確立 | ○基本的・衛生的な生活習慣の確立 ★教ア 肯定的回答 A80%以上 B60～80%未満 C60%未満 | | | | 22 | | A | |
| 学校関係者評価 | ○和やかな雰囲気で大変熱心に学校運営に取り組んでいる。 ○教員自身が教職に就き、自分のしたいことを明らかにしてもつことが大切である。 ○教職員が目標に対し、同じ目線で取り組んでいるか。方向性を一にしながら、個々の教員の特性を生かした手段で取組を進めてほしい。 ○公務員は営利目的の職種ではないが、教員として子どもを教育することに結果を求める必要がある。 | | | | | | | | | |

総合評価
A